

棚田保全 課題探る

京丹後でフォーラム

新井千枝田での「都市農村
編作と棚田保全」



各地の棚田を紹介する安藤教授（京丹後市弥栄町・府丹後農業研究所）

府主催の「丹後・棚田フォーラム」が4日、京丹後市弥栄町の府丹後農業研究所で開かれ、約70人が丹後地方の棚田の保全や復活の取り組みを聞き、今後の課題を考えた。講演した安藤和雄・

京都大東南アジア研究所教授はアジア各地と日本の棚田を比較し、中国の特徴的な構造について説明。日本の棚田に関しては「美しい景色のためだけでなく、生産基盤としても保全を考えなければな

らない」と強調した。宮津市上世屋で棚田の復活に取り組む「合力の会」の井之本泰さんは、オーナー制の導入など多彩な活動を報告。畑や山、民家など周囲の環境保護とともに棚田の保全を考える必要性を話した。

「伊根と新井の千枝田を愛する会」の福満敏博さんは都会に住む人々が保全に協力する活動を紹介し、「豊かな自然を伝えるシステム作りが地域活性化につながる」と語った。

（片村有宏）

魅力・保全策を論議

京丹後「棚田フォーラム」

丹後地方の棚田の魅力と保全対策を話し合う「丹後・棚田フォーラム」が4日、京丹後市弥栄町の府丹後農業研究所で開かれた。約70人が詰めかけ、専門家の講演や棚田での稲作や都市との交流に取り組む人の報告を熱心に聴いた。

宮津市上世屋地区で棚田復活に取り組む「合力の会」の井之本泰代表は「急斜面の草刈りは大変だが、ほっとする美しい景色を眺めながらの作業はいいものだ」と魅力を紹介。府立大の中村貴子助教は棚田での農作業について「す

べて手作業で農業の知恵が詰まっている」と指摘した。

千枚田での米作りに取り組む伊根町新井の福満敏博さんは「棚田応援団」を募集して稲作や農道整備をしていると報告。安藤和雄・京大東南アジア研究所准教授は「棚田は日本とアジアの原風景。日本の棚田復活に向け、棚田がある中国・雲南省の農民に働いてもらっては」と問題提起をした。



討論では棚田の魅力と保全活動を話し合った＝京丹後市弥栄町